

11 松川浦 (相馬市)



環 境

松川浦は福島県の東北端に位置し、北側から太平洋に突き出ている第三紀層の丘陵に、南の磯部から砂州が長く伸びてつながってできた南北に長い汽水湖である。

浦には大小様々な中州や島が点在し、長年の風雨に耐えたクロマツが枝を広げ、白砂青松の明媚な景観を形成し県立自然公園に指定されている。また周辺部には現在激減しつつあるハマナスや、汽水域に局所的に見られる貴重な塩生植物などが生育している。さらにこの地域が分布の北限とされるスナガニ、チゴガニなどのカニ類も多数生息している。

季 節

松川浦は、福島県では唯一の潟湖であり、渡り鳥の重要な中継地になっている。春と秋の渡りの途中に立ち寄るシギ、チドリ類が多く、特に宇多川河口は良い観察ポイントである。宇多川の南、岩の子側から北の河口周辺には次の目的地までの飛翔に備えて、盛んに餌をとるオオソリハシギやキョウジョシギ、歩きながらカニをついばんでいるチュウシャクシギなどが観察される。またメダイチドリ、ダイゼンなどのチドリ類の群れも見ることができる。

中州のクロマツにはサギ類のコロニーがあり、アマサギ、コサギ、チュウサギ、ダイサギの他にササ

ゴイも加わり数百羽の群れをなしている。中州には船を利用しないと渡れないが、岸のどこからでも巣材や雛に餌を運ぶ姿が見ることができる。また孵化した雛の成長する様子を、鳴き声から推測するのも楽しい。

宇多川河口の北側には広大なアシ原があり、オオヨシキリやセッカが多く、托卵を狙うカッコウの飛ぶ姿なども見ることができる。

冬期宇田川河口は、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコなどの

カモメが無数に集まり、浦の南東部から外洋を見渡せばスズガモやホオジロガモ、ウミアイサなどの海ガモも見ることができる。ここに行くには厚生年金相馬松川浦荘前の道か、農道を利用するとよい。ここから防波堤を磯部方面に向かって進むと、北の湖面にはヒドリガモ、カルガモ、マガモの群れが見られる。

交 通

JR相馬駅からJRバスで「岩の子」まで約30分。

